

第59回 入学式

～ 98名の新入生（59回生）、晴れて松高生の仲間入りを果たす ～



ん（商業科）が挨拶をしました。

本年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、ご来賓や在校生の出席を見合わせ、式の内容も精選して行うなど、異例の入学式となりました。しかし、新入生は皆、終始落ち着いた態度で式に臨みました。「令和最初」の入学生となった59回生の今後の活躍を期待させる素晴らしい入学式でした。

4月8日（水）、第59回入学式が行われ、98名の新入生（59回生）が晴れて松高生の仲間入りを果たしました。

式では、まず各クラス担任による新入生全員の呼名が行われた後、小野下和宏校長が59回生の入学を許可し、新入生を代表して土本結さん（普通科）が宣誓を行いました。さらに、生徒会長の百武歩さん（3年）が新入生歓迎の言葉を述べ、新入生を代表して宮崎菜美さん（商業科）が挨拶をしました。



新入生代表挨拶

～ 「松高生としての誇りを持ち、充実した毎日を送りたいと思います」 ～



私たちは、これから始まる高校生活を前に、不安もありますが、同時に期待で胸がいっぱいです。勉強と部活動を両立し、松高生らしい、さわやかな挨拶と身なりを大切に、行事や生徒会活動に積極的に取り組み、松浦高校、そして地元松浦に貢献します。松高生としての誇りを持ち、充実した毎日を送りたいと思います。先生方、先輩方、これからよろしくお願ひします。

（商業科 宮崎菜美）

新入生研修

～ 2日間の研修を経て、59回生も「真の松高生」に近づきました ～

4月10日（金）・13日（月）の両日、校内にて新入生研修が行われました。本年度の新入生研修は、従来4日間で行っていた内容を精選して2日間の日程で実施されました。前々日に入学式を終えたばかりの新入生（59回生）たちは、「真の松高生」となるために、集団行動や校歌練習、校長・生徒指導主事講話、各種ガイダンス、図書館オリエンテーション、礼法指導などに全力で取り組みました。

研修を終えた59回生の表情からは、2日間の研修をやり抜いた自信と、「真の松高生」となった誇りを窺うことができました。また、2日間行動を共にすることを通して、クラスや学年全体の絆も深まりました。



離任式 & 新任式

～ 12名の情熱あふれる先生が松高に赴任しました ～

今春の人事異動に伴い、中上徹前校長以下、11名の教職員が本校を離れることになりました。3月24日(火)に行われた離任式において、生徒(現2・3年生)たちは、離任される先生方からの最後のメッセージに真剣な表情で耳を傾け、お世話になった先生に花束や寄せ書きを贈るなど、心から別れを惜しみました。



4月に入り、下記の12名の教職員が本校に赴任しました。いずれも情熱あふれる素晴らしい先生方で、松高の今後の発展に貢献してくれることと思います。

【新転任の職員】 (教科等 前任校等)

小野下和宏校長 (地歴・公民 県教育委員会)

黒木真須美先生 (商業 佐世保商業高校)

相原美詠先生 (国語 清峰高校)

松永憲一先生 (情報・商業 清峰高校)

長池将希先生 (英語 奈留高校)

山口寛先生 (英語 西彼農業高校)

川内孝子先生 (養護教諭 鹿町工業高校)

川下真由美先生 (事務 佐世保商業高校)

出口美樹先生 (実習助手 佐世保商業高校)

林田由美先生 (事務現業 佐世保北高校)

田中雅彦先生 (キャリアサポートスタッフ)

前川晴菜先生 (運動部活動指導員)



4月8日(水)、1学期始業式に先立って新任式が行われ、新たに「松高職員団」の仲間入りを果たした12名の職員が生徒たちに紹介されました。

新着任の先生方は壇上に上がらず、体育館前方の職員席から紹介されるといった形で時間を短縮して実施しました。生徒たちは、新着任の先生方に心から歓迎の意を表しました。

5月のおもな行事

(注) 今後、変更される可能性があります

5月 7日(木) 早朝補習中断

5月 17日(日) ノー一部活動デー

12日(火) 第1回定期考査は中止

18日(月) 高総体組み合わせ抽選会

13日(水) //

21日(木) 高総体前短縮授業(～5/29)

14日(木) 早朝補習再開

生徒総会

15日(金) 検尿2次

25日(月) 早朝補習中断

第1回定例専門委員会

29日(金) 第1回選挙管理委員会

「松高に思う」

せいじやく

静寂の校舎に掲示板

あかね

茜に染まる「入学おめでとう」

例年とは様相が異なる4月でした。3月上旬から始まった休校を経て学校が再開。入学式では、保護者の皆様・教職員のみで59回生の入学を祝福しました。授業をなんとか始めることができたものの、22日から再度の休校となりました。

休校中のある日、夕日に照らされている屋外掲示板の言葉に目がとまりました。柔らかな気持ちの交流ができる「普段の生活」の有り難さが、じわりと感じられました。

今求められているのは、「普段の生活」を取り戻すための行動なのだと思います。明けない夜はない。そう信じて、ともに自分を律してまいりましょう。

(校長 小野下和宏)

